

自治体名	浜松市
------	-----

## 女性の健康支援対策の概要

一人ひとりの女性が健康への意識を高めることができるように、その支援方法を構築することを目的に、健康情報の提供媒体による効果を比較し、効率的な啓発方法を明らかにし、その結果を元に効率的な啓発を行い、がん検診受診率向上等女性の健康づくり推進する。

## 自治体の特徴

本市は、首都圏と関西圏の二つの経済圏のほぼ中間に位置し、面積は静岡県の約2割を占め、気候は温暖である。また本市は、JR浜松駅を中心とした都市的機能や先端技術産業が集積する都市部、都市近郊型農業が盛んな平野部、広大な森林を擁する中山間部、さらには、漁業が営まれる沿岸部までと、全国に類を見ない地域の多様性を有している。

## 人口構成・(H21.4.1現在)

	総数	男	女
人	792,104	394,090	398,014
割合(%)			

15歳未満	112,575	58,048	54,527
15～64歳	504,735	259,681	245,054
65歳以上	91,046	43,742	47,304
75歳以上	61,287	26,237	35,050
85歳以上	22,461	6,382	16,079

## 女性に関する健康課題

平成19年度に実施した健康はままつ21中間評価のための市民調査によると、19歳～29歳女性のやせの割合が20%であった。特に20歳代前半のやせは増加傾向にある。また「食育」といった言葉の周知度は高く、意識も高いと推測されるが、食生活の乱れを指摘する声も多かった。

女性特有ではないが、主観的健康感、若年層ほど高く、「生活習慣病予防」といった意識は若年層ほど低い傾向が見られた。

がん検診においては、「乳がん」「子宮がん」といった女性特有のがん検診受診率は、他都市と同様10%前半台と低い。特に年齢が低いほど、受診率も低くなっている。

## 事業費(千円)

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業	3,995
(2) 中高年期における健康支援事業	1,908
(3) 女性のがん支援事業	(1)に計上
(4) 事業全体	5,187

計

11,090

## (1) 思春期から 30 歳代における健康支援事業

事業名	ママのためのきれいなカラダづくりセミナー
分野	■健康教育 □健康手帳の交付 □健康相談 ■知識の普及 □啓発普及
事業費 (千円)	733

## 事業目的

生活習慣病の予防に関する事項について、正しい知識の普及を図ることにより、「自らの健康は自らが守る」という認識と自覚を高め、健康の保持増進に資することを目的とする。予防の観点から考えると、若い世代にこそ健康に関する認識と自覚を高めてほしいが、若年層は健康に対する関心が低く、従来、生活習慣病に関する教室や講演会等でも若年層の参加が少ないのが現状であった。そこで、若年層への啓発や周知方法についても検討を行った。

## 事業対象

浜松市に居住する乳幼児を育児中の母親

## 事業実施体制・展開

市内事業検討メンバーで、内容検討し実施した。また実施にあたり、事業検討会議においても検討を行った。

1. 周知方法
  - ①広報はままつ
  - ②チラシ（主に母子保健事業利用者へ配布）
  - ③情報誌への掲載
  - ④FM ラジオ放送
  - ⑤路線バス文字放送
2. 従事者 保健師、管理栄養士
3. 定員 30 名（申込者 85 名）→コース数を増やし対応。
4. 教室内容
  - 1 コース 2 回
    - 1 回目：「自分のカラダについて考えてみよう」
      - ・女性ホルモン、乳がん、子宮がん
    - 2 回目：「きれいなカラダは、健康から！」
      - ・食生活、運動指導
5. 留意点 教室では、2 回ともグループワークで実施。アロマを焚き、リラックスできるよう配慮した。

## 事業目標・評価項目 及び その結果

- 1) 参加者へのアンケート調査：（調査に協力が得られた参加者 58 名）
  - ・意識の変化がみられた「自分の生活習慣を振り返ることができた」57/58 人  
「今後、生活習慣を改善しようと思った」51/58 人
- 2) 申込者の年齢層：35～39 歳が 86%。30 歳代で 95%を占めた。
  - ・子どもの年齢層は、乳児、2 歳未満が最も多かった。
  - ・20 歳代の参加は殆どなく、30 代になると健康への意識が高くなるのではないかと推測された。
- 3) 申込者の教室開催の情報源：「広報はままつ」63%、「チラシ」25%、「情報誌」10%
  - ・広報による周知が最も多かった。作成したチラシによる参加も通常のチラシに比べ多く、一見した印象でチラシを見るものが多いことが推測された。
- 4) 申込者の参加動機：「健康に関心があった」36.6%、「外出したい」20.4%  
「きれいにひかれた」19.5%、「託児があったから」17.0%
  - ・健康への意識が低い母親でもでかけられる場として、また美容関連の話題から参加する傾向がある。

## 事業の工夫点

- ・対象として、児を通じてではあるが、最も健康へ関心を持つ乳幼児をもつ母親と設定。
- ・若い母親が関心、興味をもってもらえるよう教室名、チラシ内容、周知方法を検討。
- ・対象が育児中の母親のため、託児を行い、参加回数も2回とした。

## 事業の効果についての評価・考察

検討会議において、女性の健康づくりという観点から本事業について検討した。

- ① いままでの健康教育事業では、中高年の参加が多く、若年層への参加が少なかった。今回、若年層、母親を対象を絞ったことで、周知方法やタイトル等実施方法の検討が行いやすく、効果的な方法を実施できた。周知方法に関しては、「アロマ」「肌」「きれい」といった美容フレーズが女性には大変有効である。
- ② 参加動機から見ると、健康に関心がない母親も参加しているが、教室終了時には生活習慣の振り返りや改善を考えており、「乳幼児を育児中の母親」は児に対する健康意識は高いので、きっかけがあれば、容易に自分の健康や生活習慣に関する意識を高めることができる。
- ③ また、乳幼児の母親は、自由に外出できないことが多く、自分に時間をかけたいがかけられない現状があり、育児支援という側面からも、教室開催は有効であった。

## 今後の課題

### 1 母子保健事業との連携

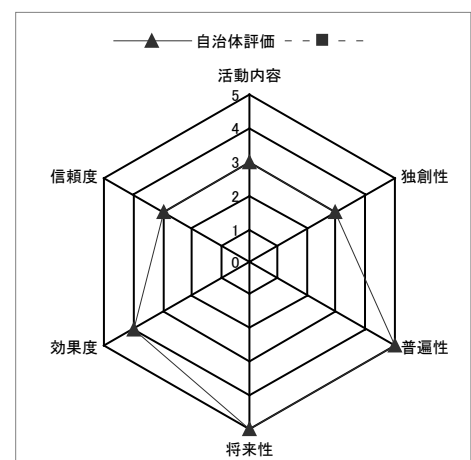
- ・健康への意識を高め、維持していくには、繰り返しの啓発が必要である。
- ・赤ちゃん訪問事業、乳幼児健康診査事業等の母子保健事業で、母親自身への健康支援をいきたい。

### 2 食生活に対する啓発

- ・検討会議では、若年層の食生活に対する実態を感じる委員が多かった。
- ・今後、食育推進も含め、女性の健康支援の展開をはかる必要がある。

ホームページ	
照会先	浜松市健康医療部健康増進課成人グループ TEL053-453-6125

事業評価	(自己評価)	
①活動内容	3	全女性市民の数から考えると少ないが、有効性は高く女性の健康づくりに寄与したと考える。
②独創性	3	教室内容そのものは、従来と変化なし。
③普遍性	5	多くの地域で実施可能である。
④将来性	5	母子保健事業との連携でより、広く実施できる。
⑤効果度	4	対象を母親にしたことで、健康に対する意識の向上など効果があった。
⑥信頼度	3	参加者アンケートのみ



## (2) 中高年期における健康支援事業

事業名	歯周病予防のために歯間ブラシを普及する事業				
分野	<input type="checkbox"/> 健康教育	<input type="checkbox"/> 健康手帳の交付	<input type="checkbox"/> 健康相談	<input checked="" type="checkbox"/> 知識の普及	<input type="checkbox"/> 啓発普及
事業費(千円)	1,792				

## 事業目的

歯周疾患の予防や進行抑制には、歯と歯の間の部分を清掃することが重要であり、健康日本21の目標値としても歯間部清掃器具を用いる者の割合を増やすことが掲げられている。その地方計画である「健康はままつ21」では、平成22年の目標をで50%以上という目標値を掲げているが、現状では達成されていない。そこで、より効果的に普及啓発をするために、リーフレットやポスターのみならず教材を配布し活用することとした。

## 事業対象

浜松市内の歯科診療所を訪れた市民、健康はままつ21協力団体（歯科医師会、薬剤師会）

## 事業実施体制・展開

健康はままつ21協力団体のうち、歯科医師会と薬剤師会を活用し、市民に働きかけを行うこととした。

## ① 歯科医師会

歯間ブラシの啓発ポスター、リーフレット、指導用模型を歯科医師会の会員に配布し、指導する側の立場にある歯科医師や歯科衛生士に対し、どの媒体が最も効果的であったかを調査した。また、指導される側としては歯科医院に来院する市民を対象にして、歯科医師や歯科衛生士の指導を受けた際にどの媒体で指導された場合に理解しやすかったかを調査した。

## ② 薬剤師会

歯科以外の分野から市民に働きかけができる団体として薬剤師会に協力を依頼した。薬剤師会の会員は、自ら薬局を開設する場合と、ドラッグストア等に勤務する場合が考えられ、歯間部清掃用具を販売することが十分に考えられるためである。

年度当初に歯周病についての研修会を開催し、普及啓発のためのポスター・リーフレット、歯間ブラシの使用法を説明するための模型を配布した。各薬局やドラッグストアなどで、ポスター・リーフレット、模型を活用してもらい、その活用のしやすさや普及啓発効果について薬剤師の意見を調査した。

## 事業目標・評価項目 及び その結果

- 1) 市民へのアンケート調査：(調査に協力が得られた者：339名、協力の得られた歯科医院：29医院)
  - ・口腔内での指導や、模型を活用した指導は、リーフレットの配布よりも役に立つと感じる傾向が見られた。
  - ・「今後、歯間ブラシを使用してみたい」と回答した割合は8割以上であった(既に使用している者を含む)。
- 2) 歯科医師への調査：アンケート回収率：(37.9%、122名/322名)
  - ・ポスター掲示は約85%、リーフレット配布94.6%、模型の活用95.5%であった。
  - ・口腔内で実際に指導すること、模型、リーフレットの順で効果があると回答する傾向が見られた。
- 3) 歯科衛生士への調査(回答が得られた者：256名)
  - ・口腔内で実際に指導するのが最も効果があると回答する傾向が見られた。
- 4) 薬剤師へのアンケート調査
  - ・歯間ブラシの使い方やサイズを選択する際には、模型のほうに役に立つと回答する傾向がみられた。

## 事業の工夫点

「健康はままつ21」の協力団体と協働し、浜松市の目標値を達成するための働きかけをするという共通の理念を生かして事業を展開した。このことにより、行政単独では実施が困難な市民へのアンケート調査も円滑に執り行うことができた。

## 事業の効果についての評価・考察

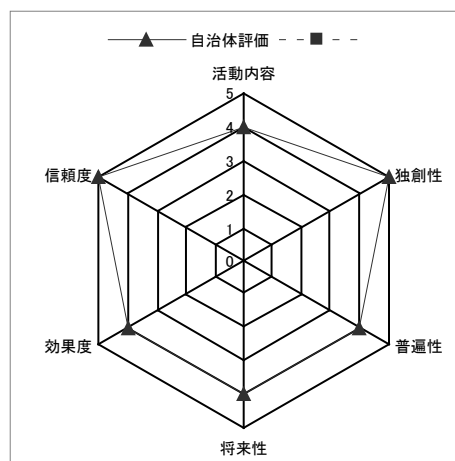
これまでの普及啓発活動では、イベントの開催やリーフレットの配布などといったことが多く行われてきた。しかし、それらの効果についてはあまり検証もせずに漫然と実施されていたという批判もある。本事業では、市民に直接に働きかける方法として、①専門的な知識を持つ者が担当した場合の介入方法による効果の違いを比較すること、②歯科の専門ではない者が担当した場合の普及啓発の可能性について検討することを目的として事業を実施した。本事業の成果では、歯科専門職が介入した場合の効果的な方法を明らかになり、また、歯科専門職が確保できない場合に歯科の普及啓発事業を効果的に実施する方法を明らかにしたことから、「健康はままつ21」の目標値達成のための一助とすることができると考えている。

## 今後の課題

市民の健康づくり運動を継続して実践していくためには、「健康はままつ21」の各項目のうち達成できた目標を多く示していく必要がある。そのためには、個人の生活習慣の変容が必要であり、歯科専門職以外でも歯科保健の普及啓発を行うことのできる仕組みづくりも検討課題である。

ホームページ	
照会先	浜松市健康医療部口腔保健医療センター TEL : 053-453-6129

事業評価	(自己評価)	
①活動内容	4	既存の枠組みを利用しており、社会資源の有効な活用である。
②独創性	5	歯科保健の普及啓発のために、歯科専門職以外を活用することは画期的である。
③普遍性	4	歯科医師会、薬剤師会の協力を得ることは、多くの地域で可能である。
④将来性	4	より多くの団体を巻き込んで実施することで、将来的に広く実施することが可能である。
⑤効果度	4	これまで配布されていただけのリーフレットなどをより効果的に活用することができる。
⑥信頼度	5	公益法人の協力を仰いでおり、調査の内容については信憑性が高いと思われる。



## (3) 女性のがん健康支援事業

事業名	女性特有のがんを知る講演会		
分野	□啓発活動	■健康教育	□健康相談
事業費（千円）	274		

## 事業目的

従来、浜松市では、がん検診の受診率向上のため、個別通知や「広報はままつ」に掲載するなどの啓発を行ってきたが、受診率は、例年 10%代前半と低い状態であった。女性特有のがん検診推進事業も実施されたこともあり、広く市民へがん検診の必要性を理解してもらい、受診率の向上を目指し実施した。

## 事業対象

- ・ 広報はままつ、ちらしをみて講演会に参加希望した市民
- ・ 子育て、健康づくりボランティア団体関係者

## 事業実施体制・展開

- ① 講演会内容や周知方法等実施方法に対し、講師、関係団体と調整。
  - ・ 女性のがん検診受診しない理由に、「どういう検診をするのかわからない（特に子宮がん検診）」「がんがもし見つかったらと思うと怖い…」といった意見が聞かれた。講演内容を検診内容と検診の重要性とした。
  - ・ 講演会の対象については、主に地域で活動する健康づくりボランティアや結核予防婦人会といった会員とした。
- ② 周知
  - ・ 通常、広報はままつで知り、講演会に参加する市民が多いが、健康づくりボランティアの研修会と位置づけ、ちらし、ポスター作成時にも地域住民の声をもらい作成。また配布についても依頼した

## 事業目標・評価項目 及び その結果

- 1) 参加者アンケート 「検診の重要性、検診の内容についてわかった」と回答した者 95%
- 2) 参加者年齢層 30歳代 22%、40歳代 17%、50歳以上 60%
- 3) 自己検査法のコーナーへの参加者 講演会参加者の80%が参加。
  - ・ PR コーナーに設置した啓発用パンフレットについて、参加できなかった地域の市民にも配布したいと健康づくりボランティアが多く、用意した配布物の殆どがなくなった。
- 4) 参加者の講演会周知方法 健康づくりボランティア等 25%、広報はままつ 20%
- 5) その後反響
  - ・ 女性の健康相談（電話相談）への検診に関する問い合わせが増えた。
  - ・ 講師の診療所に数名ではあるが、講演会を聞いて受けたくなくなったのでと検診受診した者がいる。

### 事業の工夫点

- ・ 単なる広報による周知のみでなく、地域での情報提供役となる健康づくりボランティア、結核予防婦人会、食育ボランティアへ積極的な周知を行った。
- ・ また、若年層にも講演会に来てもらうため、子育て関連の関係団体へも積極的に周知を行った。
- ・ 検診受診に結びつきやすい、女性特有のがん検診推進事業についても、広く周知を行った。

### 事業の効果についての評価・考察

女性の健康支援対策事業検討会議で本事業について検討した。

- ① 本市のがん検診の受診率は低く、特に若い年齢層では低い現状にある。これまでも個別通知により受診勧奨を実施してきたが、横ばいの状況であった。今回、受診率向上に結びついたかは、今後の受診動向をみないと評価できないが、対象を健康づくりボランティア等地域での健康情報提供者にしたことは有効であった。
- ② 講演会前後から、無料クーポン券や女性特有のがん検診に関する問い合わせが増えた。
- ③ 講演会の内容については、今回の内容は「自分の健康は、自分で守る」といった健康づくりへの意識啓発が将来的に検診受診率向上に最も大切なことではないかといった意見もあった。

### 今後の課題

- ・ 事業目的である女性特有のがん検診の受診率向上には、定期的な情報提供、啓発が重要である、また住民に対する健康づくり意識をいかに定着させていくかが大きな課題である。
- ・ 女性のライフサイクルの中での効果的な啓発を母子保健事業とあわせ位置づけていくことが必要である。

ホームページ	
照会先	浜松市健康増進課 成人グループ 053-453-6125

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	3	既存の地域組織を活用しており、社会資源の有効な活用である。
②独創性	2	講演会の主な対象を絞って実施することは、効果的である。
③普遍性	4	どこの自治体でも実施できる。
④将来性	3	定期的な活動展開は可能である。
⑤効果度	3	一時的な効果は大きいですが、継続的な効果は疑問。
⑥信頼度	4	主な対象が、地区担当保健師が常に連携しているボランティアであり、信頼できる。

